



## 2025年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年11月11日

上場会社名 東洋精糖株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 2107 URL <https://www.toyosugar.co.jp>  
 代表者（役職名）代表取締役社長執行役員（氏名）三木 智之  
 問合せ先責任者（役職名）取締役専務執行役員管理本部長（氏名）鈴木 陽（TEL）03(3668)7871  
 半期報告書提出予定日 2024年11月12日 配当支払開始予定日 2024年12月9日  
 決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

## 1. 2025年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（2024年4月1日～2024年9月30日）

## （1）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期中間期	9,218	7.3	693	38.4	759	△40.9	531	△47.3
2024年3月期中間期	8,592	15.9	501	135.8	1,284	449.8	1,008	494.6

（注）包括利益 2025年3月期中間期 502百万円（△52.8%） 2024年3月期中間期 1,065百万円（574.7%）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期中間期	97.49	—
2024年3月期中間期	185.01	—

## （2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期中間期	13,944	11,340	81.3
2024年3月期	13,696	11,152	81.4

（参考）自己資本 2025年3月期中間期 11,340百万円 2024年3月期 11,152百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	57.50	—	57.50	115.00
2025年3月期	—	35.00	—	—	—
2025年3月期（予想）	—	—	—	35.00	70.00

（注）1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2. 2024年3月期 第2四半期末配当金の内訳 普通配当17円50銭、記念配当15円00銭、特別配当25円00銭  
 2024年3月期 期末配当金の内訳 普通配当17円50銭、特別配当40円00銭  
 2025年3月期 第2四半期末配当金の内訳 普通配当20円00銭、記念配当15円00銭  
 2025年3月期（予想） 期末配当金の内訳 普通配当20円00銭、記念配当15円00銭

## 3. 2025年3月期の連結業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	18,000	3.4	1,200	17.8	1,300	△34.0	900	△40.5	165.06

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 無  
新規 — 社(社名) — 、除外 — 社(社名) —

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2025年3月期中間期	5,456,000株	2024年3月期	5,456,000株
2025年3月期中間期	3,350株	2024年3月期	3,350株
2025年3月期中間期	5,452,650株	2024年3月期中間期	5,452,675株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(中間期)

※ 第2四半期(中間期)決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間連結会計期間の経営成績の概況	2
(2) 当中間連結会計期間の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間連結貸借対照表	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	6
中間連結損益計算書	6
中間連結包括利益計算書	7
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等の注記)	9

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当中間連結会計期間の経営成績の概況

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、好調なインバウンド需要や、猛暑による飲料・冷菓等の消費増加、お盆シーズンや連休でのレジャー需要の喚起など季節需要が拡大したこともあり、景気は緩やかな回復基調で推移しました。一方で、拡大する国際的な緊張や、国内における自然災害の影響、物価上昇による個人消費の抑制など、先行きは不透明な状況が続いております。

当社グループにおきましては、砂糖の原材料である粗糖の価格(ニューヨーク粗糖先物相場)が、当中間期は1ポンド当たり22.65セントで始まり、ブラジルの堅調な生産と同国の農地火災や干ばつ等の要因でもみ合い、最終的に22.67セントで終了しました。

このような状況下、砂糖事業、機能素材事業を営む当社及び当社の卸売部門である連結子会社トーハン株式会社は、安全・安心な製品をお客様に安定的に供給する事に努めてまいりました。

その結果、当中間連結会計期間の業績につきましては、次のとおりであります。

なお、当中間連結会計期間より、経営管理方法を最適化するため、従来「砂糖事業」セグメントに含めておりました商品の一部を「機能素材事業」に区分変更しております。

#### 砂糖事業

ニューヨーク粗糖先物相場の期近限月は、1ポンド当たり22.65セントで取引が始まり、4月から5月にかけては、タイでの生産量が想定を上回り、またブラジルでの生産が堅調であったため、世界的な供給量に安心感が出てきたことから、18セント台まで下落しました。6月に入ると一転し、主要国での天候不安や作物病害もあり、20セント台まで回復を見せました。7月から8月前半にかけては、世界的に十分な供給が見込まれたことから、再び下落基調で推移し、8月20日には期中最安値となる17.52セントを記録しました。しかし8月後半以降は、ブラジルでの農地火災や干ばつを背景に一気に不安が広がり、価格は急騰し、9月26日に期中最高値23.71セントを付けた後、最終的には22.67セントで当中間期を終了しました。

一方、日本経済新聞掲載の東京上白糖現物相場は、1キログラム当たり249円～251円で始まり、保合いのまま当中間期を終了しました。

このような状況下、社会経済活動の活発化やインバウンドによる需要増もあり販売量が増加したことから、売上高は8,086百万円(前年同期比6.3%増)となりました。原材料費・光熱費などの製造原価や輸送費などの販売経費は上昇したものの、販売量増に加え製品価格改定の定着があったことから、営業利益は798百万円(前年同期比33.1%増)となりました。

#### 機能素材事業

飲料やサプリメント向け製品の出荷が順調に推移したことに加え、機能性表示食品向けに酵素処理ヘスペリジンの出荷が好調に推移したこと、また化粧品原料の出荷も順調に推移したことから販売量は前年同期を上回り、売上高は1,132百万円(前年同期比15.2%増)、営業利益は200百万円(前年同期比7.4%増)となりました。

以上の結果、当中間期の連結経営成績につきましては、売上高9,218百万円(前年同期比7.3%増)、営業利益693百万円(前年同期比38.4%増)、前期の一過性の受取配当金753百万円の反動により、経常利益759百万円(前年同期比40.9%減)、親会社株主に帰属する中間純利益531百万円(前年同期比47.3%減)となりました。

## (2) 当中間連結会計期間の財政状態の概況

## (資産、負債及び純資産の状況)

当中間連結会計期間末の資産合計は、関係会社貸付金の減少などがあるものの、棚卸資産の増加や関係会社株式への追加出資に伴う投資有価証券の増加などにより、前連結会計年度末に比べ248百万円増加し13,944百万円となりました。負債合計は、未払費用や未払法人税等の減少などがあるものの、支払手形及び買掛金や未払消費税等の増加などにより、前連結会計年度末に比べ59百万円増加し2,603百万円となりました。純資産合計は、配当金の支払などがあるものの親会社株主に帰属する中間純利益の計上などにより、前連結会計年度末に比べ188百万円増加し11,340百万円となりました。この結果、自己資本比率は前連結会計年度末の81.4%から81.3%となりました。

## (キャッシュ・フローの状況)

## ①現金及び現金同等物

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、前連結会計年度末に比べ、547百万円減少し4,056百万円(前連結会計年度末比11.9%減)となりました。

## ②営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果、使用した資金は193百万円(前年同期は140百万円の獲得)となりました。主に税金等調整前中間純利益の計上759百万円などがあったものの、棚卸資産の増加901百万円や法人税等の支払262百万円などがあったことによります。

## ③投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果、使用した資金は55百万円(前年同期比61.8%増)となりました。主に貸付金の回収による収入462百万円などがあったものの、関係会社株式の追加取得による支出500百万円などがあったことによります。

## ④財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果、使用した資金は299百万円(前年同期比55.5%増)となりました。主に配当金の支払296百万円などがあったことによります。

## ⑤資本の財源及び資金の流動性

当社グループの資本の財源及び資金の流動性は、営業活動等に必要な運転資金を確保するため、資金の適正額を維持することとしております。当中間連結会計期間末の資金の残高は、4,056百万円であり、金融機関との間で締結している当座貸越契約による短期借入金の実行残高はありません。

また、投資活動の必要資金は原則自己資金にて賄っております。必要に応じて金融機関から調達も行いますが、当中間連結会計期間末の長期借入金の実行残高はありません。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年3月期の連結業績予想につきましては、2024年5月9日付「2024年3月期決算短信〔日本基準〕(連結)」にて公表いたしました連結業績予想を修正いたしました。

詳細につきましては本日(2024年11月11日)公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

## 2. 中間連結財務諸表及び主な注記

## (1) 中間連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,604	4,056
受取手形、売掛金及び契約資産	2,022	1,852
商品及び製品	1,014	1,017
仕掛品	213	217
原材料及び貯蔵品	1,175	2,069
短期貸付金	929	882
その他	87	148
貸倒引当金	△18	△16
流動資産合計	10,029	10,228
固定資産		
有形固定資産	325	306
無形固定資産	9	10
投資その他の資産		
投資有価証券	1,164	1,659
長期貸付金	1,902	1,487
退職給付に係る資産	190	185
その他	79	70
貸倒引当金	△5	△4
投資その他の資産合計	3,331	3,398
固定資産合計	3,667	3,716
資産合計	13,696	13,944

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,263	1,439
未払法人税等	289	225
賞与引当金	83	70
その他	502	476
流動負債合計	2,139	2,211
固定負債		
役員退職慰労引当金	39	23
退職給付に係る負債	321	332
資産除去債務	1	1
その他	43	34
固定負債合計	405	392
負債合計	2,544	2,603
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,904	2,904
利益剰余金	7,974	8,192
自己株式	△4	△4
株主資本合計	10,874	11,092
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	183	167
繰延ヘッジ損益	8	-
退職給付に係る調整累計額	84	80
その他の包括利益累計額合計	277	248
純資産合計	11,152	11,340
負債純資産合計	13,696	13,944

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書  
中間連結損益計算書

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
売上高	8,592	9,218
売上原価	7,289	7,672
売上総利益	1,303	1,546
販売費及び一般管理費		
販売費	267	278
一般管理費	534	574
販売費及び一般管理費合計	801	852
営業利益	501	693
営業外収益		
受取利息	15	18
受取配当金	761	12
持分法による投資利益	17	16
為替差益	-	14
その他	9	5
営業外収益合計	804	66
営業外費用		
支払利息	0	0
為替差損	20	-
その他	0	1
営業外費用合計	21	1
経常利益	1,284	759
特別損失		
固定資産除却損	-	0
特別損失合計	-	0
税金等調整前中間純利益	1,284	759
法人税、住民税及び事業税	282	205
法人税等調整額	△7	21
法人税等合計	275	227
中間純利益	1,008	531
親会社株主に帰属する中間純利益	1,008	531

## 中間連結包括利益計算書

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
中間純利益	1,008	531
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	60	△16
繰延ヘッジ損益	△0	△8
退職給付に係る調整額	△3	△4
その他の包括利益合計	56	△29
中間包括利益	1,065	502
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	1,065	502

## (3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前中間純利益	1,284	759
減価償却費	35	31
貸倒引当金の増減額(△は減少)	3	△3
賞与引当金の増減額(△は減少)	△6	△13
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	△1	△1
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△2	11
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△13	△15
受取利息及び受取配当金	△777	△30
支払利息	0	0
持分法による投資損益(△は益)	△17	△16
売上債権の増減額(△は増加)	△478	170
棚卸資産の増減額(△は増加)	△762	△901
仕入債務の増減額(△は減少)	282	176
未払金の増減額(△は減少)	12	34
その他	△8	△161
小計	△451	39
利息及び配当金の受取額	777	30
利息の支払額	△0	△0
法人税等の支払額	△185	△262
営業活動によるキャッシュ・フロー	140	△193
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△52	△12
無形固定資産の取得による支出	△0	△0
投資有価証券の取得による支出	△1	△1
関係会社株式の取得による支出	-	△500
貸付けによる支出	△460	-
貸付金の回収による収入	455	462
保険積立金の解約による収入	24	-
その他	0	△2
投資活動によるキャッシュ・フロー	△34	△55
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
自己株式の取得による支出	△0	-
配当金の支払額	△189	△296
リース債務の返済による支出	△2	△2
財務活動によるキャッシュ・フロー	△192	△299
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△86	△547
現金及び現金同等物の期首残高	3,756	4,604
現金及び現金同等物の中間期末残高	3,670	4,056

## (4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

## I 前中間連結会計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	中間連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	砂糖事業	機能 素材事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	7,609	983	8,592	—	8,592
セグメント間の内部売上高 又は振替高	0	—	0	△0	—
計	7,609	983	8,592	△0	8,592
セグメント利益	600	186	786	△285	501

(注) 1. セグメント利益の調整額は、主として各報告セグメントに配分していない全社費用(一般管理費)であります。

2. セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## II 当中間連結会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	中間連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	砂糖事業	機能 素材事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	8,086	1,132	9,218	—	9,218
セグメント間の内部売上高 又は振替高	0	—	0	△0	—
計	8,086	1,132	9,219	△0	9,218
セグメント利益	798	200	999	△305	693

(注) 1. セグメント利益の調整額は、主として各報告セグメントに配分していない全社費用(一般管理費)であります。

2. セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当中間連結会計期間より、経営管理方法を最適化するため、従来「砂糖事業」に含まれていた商品の一部を「機能素材事業」に区分変更しております。

なお、前中間連結会計期間のセグメント情報につきましては、変更後の区分により作成したものを記載しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。